

# 公共交通で行く Vol. 5

発行：和歌山県総合交通政策課企画班

**第5回目**は日高川により栄えた町を散策します。

「日本一短いローカル私鉄 紀州鉄道」に乗って、ノスタルジックな雰囲気の中、

御坊市にある“寺内町”へ向かいます。日高別院を中心に形成された町で、江戸時代には

交通の要所として、また日高川河口を利用した廻船業が栄えました。その後は日高紡績を

起こした戸田実などを輩出し、商・工業都市として繁栄します。当時の面影が残る町並みを

歩いてタイムスリップです。

そこから「かえるの町」印南町、「南部梅林」で有名なみなべ町へ向かいます。印南町

はかつお節発祥地で知られていますが、その考案者 角屋甚太郎の子孫・与一とヲサナの悲

恋物語が伝わる印定寺。みなべ町は古代より神の島として崇められている鹿島にまつわる

鹿島神社。それぞれを訪れます。

時代の流れと歴史を感じながら紀中の町を巡ります。



## 御坊市（寺内町）

和歌山駅（09:51 発 JRきのくに線普通列車 御坊行き）乗車→  
御坊駅（10:58 着）降車→（乗換）→  
御坊駅（11:03 発 紀州鉄道）→西御坊駅（11:11 着）降車  
→（散策）

<散策時間 約 1.5 時間>



## 印南町



西御坊バス停（12:58 発 熊野御坊南海バス 印南線）乗車→  
印南浜西バス停（13:18 着）降車→（散策）

<散策時間 約 1.5 時間>



## みなべ町

印南駅（14:43 発 JRきのくに線普通列車 紀伊田辺行き）乗車→  
南部駅（14:58 着）降車→（散策）

<散策時間 45 分>



## 帰路

南部駅（15:45 発 JRきのくに線普通列車 御坊行き）乗車→  
御坊駅（16:20 着）降車→（乗換）→  
御坊駅（16:33 発 JRきのくに線普通列車 和歌山行き）乗車→  
和歌山駅（17:35 着）降車



[交通費] 計3470円

(内訳) 電車 2930円(往路:1410円 復路:1520円)

バス 540円

## ●御坊市（寺内町）

紀州鉄道は県内唯一の非電化路線で、ディーゼル車両が走ります。現在は西御坊駅が終点ですが、かつては日高川まで続いていました。廃線となった区間の線路もそのまま残っている箇所もあります。

寺内町には「御坊市」の地名の由来である日高別院があります。こちらには県の天然記念物に指定されている樹齢400年あまりのいちょうの木がそびえます。繁栄の時代を思い起こさせる商家など建造物の造り、凝ったデザインなど見どころが多くあります。

小竹八幡神社は神功皇后と応神天皇の行宮(\*)である「小竹宮」の推論地に建立されています。元々は御坊市体育館周辺に鎮座していましたが、1585年の戦乱にて焼失。1678年に現在の地へ遷宮されました。10月に行われる「御坊祭り」は日高地方最大の例大祭です。

また御坊寺内町会館で御坊市の歴史や縁の人物などについて学べます。1964年の東京オリンピック誘致に尽力した和田勇（フレッド・イサム・ワダ）の縁の地であり、彼の功績を振り返れます。

(\*)天皇の行幸時の仮宮

☆補足：御坊市から印南町へ向かうバス路線沿線（熊野御坊南海バス 印南線）に観光農園があります。季節の果物やお花を楽しめます。降車バス停は「寺前」です。

## ●印南町

印南町はかつお節発祥地として知られています。印南の漁民であった角屋親子によって、かつお節の製法が考案されます。現在印南町でかつお節の生産は行われていませんが、日本全国に広がり今に至ります。日本食には欠かせない一つとなりました。印定寺には考案者 角屋甚太郎の位牌がお祀りされています。彼らにまつわる場所がいくつかありますので、併せて巡ってみるのもいいですね。

また印南町には「愛伝説」が言い伝えられており、今回ご紹介します印定寺以外に小栗半官と照手姫の東光寺・聖の君と瀧姫の瀧法寺があります。

印南駅周辺にはかえる橋やかえるの港などの立ち寄りスポットもあります。

## ●みなべ町

南部湾に浮かぶ鹿島。古代より神の島として崇められており、宝永の大地震・嘉永の大地震の際にはみなべの郷を津波より守ったと言い伝えられています。島全体が信仰の対象とされてきました。対岸よりの遙拝所として鹿島神社が拝殿され、明治42年に天照大神と須佐之男命と合祀され島より移されました。

神鎮まる鹿島へは船で渡ることができます。

○熊野御坊南海バス 印南線 バス停案内 \*バス停位置は目安です

御坊市



印南町



様々な年代の建物や歴史に思いを馳せながら、今回ご紹介しますエリアの散策はいかがでしょう。普段歩いている町も思いもよらない歴史が隠されているかもしれません。見慣れた景色もまた違ったように見えてきます。

歩いても行けそうな距離をあえて紀州鉄道に乗ってのんびり時間、JRきのくに線の車窓からは雄大な海を眺めて堪能。今回乗車するきのくに線区間では切目駅から岩代駅がおすすめです。

これまでご紹介しました紀中エリアの各ルートもご参考ください。ご興味のある目的地を組み合わせ、ぜひ公共交通機関を利用して巡ってみてください！